



年明けと共に、能登半島地震が発生し、名古屋でも大きな揺れを感じました。雪の多い北陸地方は寒い中での震災です。ご家族やお友だちを亡くされた方々、被災された方々、避難生活をされている方々が一日も早く平穏な日常を取り戻せるよう、神さまのご加護をお祈りしています。そして、私たちも自分にできることへの一歩を踏み出せる勇気が与えられるよう祈ります。

今月の礼拝

単元7: イエスの教え①

📖…お話 🎵…奏楽

月日	週 題	聖書箇所	ティーンズ礼拝 (小4～中高生) 9:00～9:30	プレイ・タイム (小学生／中高生) 9:35～9:55	こどもれいはい (幼児～小3) 10:00～10:20
2月4日	岩の上に建てた家	マタイ福音書 7:24-29	📖 武岡 基 🎵 堤 砂里奈		📖 武岡 基 🎵 堤 砂里奈

単元8: 十字架への道①

2月11日	ラザロの復活	ヨハネ福音書 11:1-53	📖 安達正樹牧師 🎵 安達いづみ	📖 安達正樹牧師 🎵 安達いづみ
2月18日	十字架の予告	マタイ福音書 20:17-28	📖 武岡路実 🎵 安達いづみ	📖 武岡路実 🎵 安達いづみ
2月25日	香油注ぎ	ヨハネ福音書 12:1-11	📖 堤 砂里奈 🎵 武岡路実	📖 安達いづみ 🎵 武岡路実

子どもの礼拝（CS）

クリスマス礼拝・祝会

12月17日（日）午後

金城学院高等学校キャラバン隊のみなさんと共にクリスマスの礼拝を守りました。

クリスマス礼拝の後には人形劇や手遊びをしていただき、子どもから大人まで、みんなで楽しいクリスマスの祝会を過ごしました。



今月の聖句

あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、
いちばん上になりたい者は、皆の 僕 になりなさい。

（マタイ 20:26-27）

今月のさんびか

こどもさんびか 138（マリ マリ ティ イエスさま）

子どもの礼拝では、先月に続いて「イエスさまの教え」、3月31日のイースターに向けて「イエスさまの十字架への道」について学びます。クリスマスでイエスさまの誕生の物語を学びましたが、そこからイエスさまの福音、十字架・復活と、短期間で一気にイエスさまの生涯をたどっていきます。クリスマス、イースター、どちらも教会にとって大切にしているできごとです。

今月のさんびか「マリ マリ ティ イエスさま」は、台湾原住民*の一民族パイワン族の賛美歌です。台湾原住民の多くは古来から歌や踊りを大切にしてきましたが、そうした文化がキリスト教の礼拝の中にも取り入れられています。また、若い世代を中心としてピアノやギター、ドラムなどの楽器を用いる賛美も盛んです。この賛美歌もパイワン族の伝統的な歌唱法、現代ポップスのアレンジの両方で歌われています。

台湾では日本に植民地支配されていた時代（1895-1945 50年間も！）から山岳地帯に住む原住民にキリスト教が伝わり、広まってきました。そのため、「イエスサマ」「カミサマ」「セイレイ」など、原住民の人たちが使うキリスト教の言葉の中に日本語が残っています。この賛美歌の「イエスさま」の部分はパイワン語でも「イエスサマ」と歌われています。日本や中国によって、名前や言葉、生活習慣などを奪われた歴史を持つ台湾原住民の人びとは、今、「自分たちらしさ」を大切に守っていかうとしています。神学教育の現場でも、それぞれの民族の言葉で説教をするための教育が行われています。

日本語の歌詞をあてはまると、日本語のアクセントやイントネーションとは異なり、歌にくい部分もありますが、メロディーそのものは日本の民謡にも多くみられる五音音階（日本や東アジアなど多くで用いられる一般的な五音音階で八長調ではCド、Dレ、Eミ、Gソ、Aラ、の5つの音からなる音階）の曲で親しみやすい曲調なので、慣れてくると歌いやすくなります。東アジアの隣人同士の古くからの交流が感じられます。



※原住民…ある土地に昔から住んでいた人びとのことを日本では一般的に「先住民」「先住民族」と表記することが多く、「原住民」には差別的な意味合いがあるととらえる見方もあります。一方で、中国や台湾などの漢語では「原住民」には「すでに滅んでしまった民族」という意味としてとらえられるため、台湾に昔から住んでいる人びと自身が「原住民」という言い方を用いています。同じ漢字文化の国や地域であっても、言葉の持つ意味合いに違いがありますね。

がたんじょうびおめでとう🍰

2月生まれのお友だち

鬼は～外！

キリスト教とはまったく関係がありませんが、日本では春を迎える節分（2月3日）に豆まきをして鬼を外へ追い払います。「豆」＝「魔滅」というゴロ合わせもあるようです。昔の暦ではこの節分が一年の終わり、大晦日で、翌日に新しい年を迎えます。ですから、一年の最後に一年間の悪いものやいわゆる「厄」を拭い去るという考え方もありました。「鬼退治」とともに、私たちの中に潜む、鬼や悪魔を追い払うことができるのは私たち自身の心です。心にも魔滅まきたいものです。

キリスト教においては、カトリックでは神父に「悪魔（サタン）払い」の力があるとする考え方もありますが、プロテスタントでは「悪魔（サタン）払い」の考え方はありません。悪魔（サタン）を追い払えるのは、ただイエスさまだけです。だからこそ、私たちはイエスさまに依り頼み、私たち自身が心を清めるよう努め、私たちの中にある罪や悪魔（サタン）を追い出していただくのです。他力本願ではないのです。